

取扱説明書

茶園用管理作業機

“ティローター”

TR300



- 取扱説明書本文中に出てくる重要危険部分は、製品を使用する前に注意深くお読みいただき、十分理解してください。
- 本製品ご購入の際には、販売店より安全のための使用方法についての説明をお受けください。
- 取扱説明書はいつでもごらんになれるよう、品質保証書とともに大切に保管してください。
- 安全性維持のため、別紙点検表に従い年次点検をお受けください。(有料)
- 本製品の保守には必ずメーカー純正部品をご使用ください。

株式会社 オーレック

《販売店様へ》

本製品納品の際には納品前点検を行い、お客様から商品受領書をお受け取り後、①メーカー控えを専用封筒にてご返送願います。

目次

| 項目 | 頁 |
|-------------------|----|
| 《はじめに》 | 1 |
| 《本製品の規制について》 | 1 |
| 《保証とサービスについて》 | 1 |
| 《定義とシンボルマーク》 | 2 |
| 《安全に作業をするために》 | 2 |
| 《各部の名称》 | 5 |
| 《各部のはたらき》 | 6 |
| 《方向について…》 | 7 |
| 《機械を他人に貸すときは》 | 7 |
| 《上手な運転のしかた》 | 8 |
| 運転前の始業点検 | 8 |
| 走行・旋回・変速・停止のしかた | 11 |
| エンジン始動・停止のしかた | 8 |
| トラックへの積み降ろしのしかた | 13 |
| 《上手な作業のしかた》 | 14 |
| 耕うん作業のしかた | 14 |
| 圃場での耕うん作業 | 18 |
| 《長期保管のしかた》 | 17 |
| 《各部オイルの点検・補給・交換》 | 18 |
| ミッションオイルの点検・補給・交換 | 18 |
| エンジンオイルの点検・補給・交換 | 19 |
| 《各部の点検・整備・調整のしかた》 | 20 |
| エアクリーナの清掃のしかた | 20 |
| 燃料フィルタポットの清掃のしかた | 21 |
| 燃料パイプの点検のしかた | 20 |
| 点火プラグの点検・調整のしかた | 21 |
| 《その他の点検》 | 21 |
| 各部ワイヤ・ベルト調整のしかた | 22 |
| 耕うん爪の点検と交換のしかた | 27 |
| 《消耗品明細》 | 24 |
| 《仕様》 | 25 |
| 《工具袋・同梱品明細》 | 25 |
| 《定期自主点検表》 | 26 |
| 《自己診断表》 | 27 |
| 《エンジンの不調とその処理方法》 | 28 |
| 《アタッチメント（別売品）》 | 29 |

《はじめに》

このたびは、本製品をお買い上げ頂きまして誠にありがとうございました。

この取扱説明書は本製品を常に最良の状態に保ち、安全な作業をしていただくために、正しい取扱方法と簡単なお手入れ方法について説明してあります。

ご使用前に必ずこの取扱説明書を良くお読みいただき、安全な運転作業と正しい取扱方法を十分理解し、安全で能率的な作業にお役立て下さい。

又、お読みになった後はいつでも取り出してご覧になれるよう大切に保管し、本製品を末永くご使用頂けますようご活用下さい。

尚、品質・性能向上及びその他の事情による部品等の変更で、お手元の製品と本書の内容が一部一致しない場合がありますので、あらかじめご了承下さい。

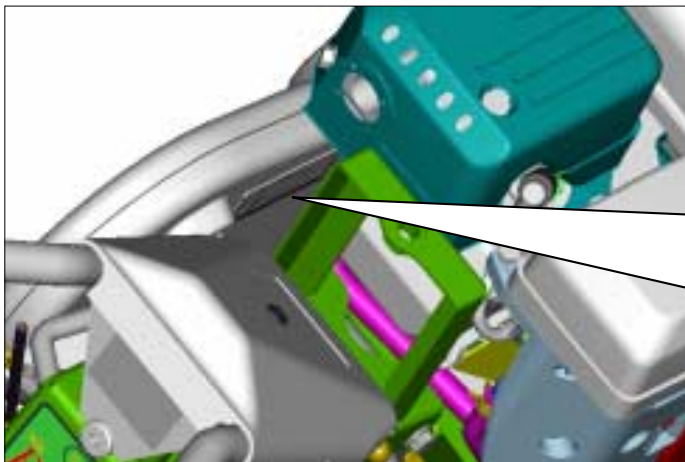
《本製品の規制について》

本製品は、茶業農家向けの**耕耘機**として開発しておりますので、これ以外の用途には使用しないで下さい。またレンタル業等、農業以外の目的に使用した場合には保証の対象外となる場合がありますのでご注意下さい。

《保証とサービスについて》

本製品の保証期間は、購入後1ケ年間、又は50使用時間(專業としての使用については6ケ月間、もしくは50使用時間)の内どちらか早い時点で到達した方となっております。

ご使用中の事故・ご不審な点及びサービスに関するご用命は、お買い上げ頂いた販売店又は当社営業所までお気軽にご相談下さい。その際、『商品型式と製造番号・搭載エンジンの型式名』を併せてご連絡下さい。



| | |
|--|-------------|
| 種 類 Description | 農用トラクタ(歩行型) |
| 型 式 名 Model | TR300 |
| 製造番号 Serial No. | 0000000000 |
| 発 売 元 | (株)オーレック |
| 株式会社 オーレック MADE IN JAPAN OREC CO., LTD. FABRIQUE AU JAPON | |




「取扱説明書」に記載してある適正な点検・整備を怠った場合、及び仕様をこえた使用・改造等によつての故障・事故については、保証の対象外となります。

◎この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年と致します。

但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては納期等についてご相談させていただく場合もあります。又、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

《定義とシンボルマークについて》

本書では、危険度の高さ(又は事故の大きさ)に従って、次のような定義とシンボルマークが使用されています。以下のシンボルマークがもつ意味を十分に理解し、その内容に従って下さい。

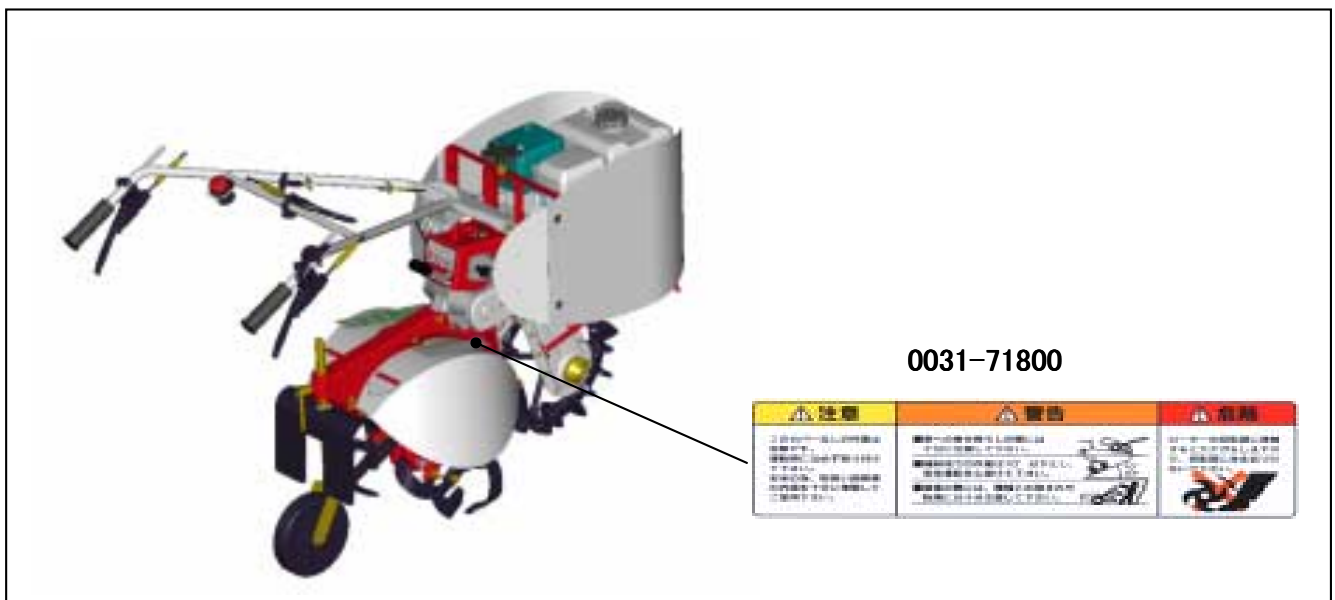
| シンボルマーク | 定 義 |
|---|--|
|  危険 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
|  警告 | その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
|  注意 | その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。また、遵守又は矯正しないと、製品自体に損傷を与えるものも示します。 |
| 参考; | 操作、保守において知っておくと得な製品の性能、誤りやすいミスに関する事項を示します。 |

《安全に作業をするために》…重要危険項目…

(1) 警告表示マーク

・以下の危険表示マークは本項目内における重要危険事項の中からとくに重要なものとして厳選されており本体に貼付されています。ご使用前に必ずお読みいただき、十分理解して必ず守って下さい。

- …危険表示マークが見えにくくなった場合には、貼り変えるなどして常にはっきり識別できるようにしておいて下さい。 〈24頁…消耗品明細参照〉
- …本機はガソリンを燃料としており、作業中はもちろん機械のそばでのくわえたばこや焚き火等の裸火照明は引火の危険がありますので絶対にしないで下さい。



(2) 作業前の注意

- ・本機の運転に際しては、使用上の注意事項を十分理解し、安全運転を徹底して下さい。
- ・所有者以外の方は使用しないで下さい。
- ・過労、病気、薬物その他の影響により正常な運転操作が出来ない時には作業を控えて下さい。
又、酒気を帯びた人、妊婦、若年者、未熟練者も作業をしないで下さい。
- ・機械の回転部に巻き込まれたりしないよう、作業衣は長袖の上着に裾を絞った長ズボンを着用し、滑り止めのついた長靴や帽子等を必ず使用して下さい。

**▲ 安全のためのカバー類はもとより、標準に装備されている部品を外しての運転は非常に危険です。
事故防止のためこれらのカバー類、部品は常に装着した状態で使用して下さい。**

- ・タイヤセットピンが確実に入っているか点検し、不完全な場合には確実にセットして下さい。

▲ 排気ガスによる中毒防止のため、屋内では使用しないで下さい。

- ・転落防止のため、川や崖に向かっての作業はしないで下さい。
- ・主クラッチが「切」位置の時、Vベルトが確実に停止しているか点検し、少しでも動いている場合には速やかにエンジンを停止し、ベルト押えワイヤを調整して下さい。
- ・10°以上の勾配での傾斜地作業や、トラック搭載用ブリッジの勾配が15°をこえると危険です。
安全作業のため、これらの勾配角度未満でご使用ください。

**▲ 斜面で不要に主クラッチを切ったり、走行変速レバーを中立にすると暴走し危険です。
斜面でこれらの操作はしないで下さい。**

- ・平坦部と傾斜部との境目（路肩）を走行する場合は、路肩崩れや転落の危険性があります。
十分に安全な平坦地を走行して下さい。

**▲ 暗い時、視界が悪いときの使用は危険です。周囲の状況が十分に把握できないときには
使用しないで下さい。**

- ・安全作業の障害となるような本機の改造(夜間作業用のライトの装着、ロータリカバーの改造等)は
絶対にしないで下さい。これらの改造に起因する事故、及び不具合に関しては一切の責任を負いかねます。

(3) 燃料給油時の注意

- ・給油は必ず燃料タンクの油面上限マーク以下にし、万一多く入れ過ぎたときは、マーク以下になるまで
抜き取り、周辺にこぼれた燃料は必ずふき取って下さい。

▲ 火傷や火災の危険がありますので、給油はマフラの温度が十分下がってから行って下さい。

(4) 始動時の注意

- ・エンジンの回りや排気ガス方向には、燃えやすいものを近付けないで下さい。
- ・周囲に人や動物や車両等がない事を確認し、安全を確認した後始動をして下さい。
- ・始動時必ず各クラッチ、レバーは「切」及び「中立N」状態にしてください。

(5) 積み降ろし時の注意

〈13頁…参照〉

- ・平坦で安全な場所を選び、トラックが動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて
確実に駐車をして下さい。
- ・丈夫なブリッジを確実に掛け、ゆるい勾配でエンジン回転を下げ、積み込みは「前進①」位置で
降ろすときには「後進」位置でどちらもゆっくり行いその他の位置には入れないでください。

▲ ロータリークラッチを「入」位置のまま移動及び積み下ろしを行わないで下さい。

(6) 作業中の注意

・安全のため、余裕を持った運転を心掛け、急発進・急停止・急旋回はしないで下さい。

▲ 特に固い圃場ではダッシング(ロータリ回転の反力により本機が前方もしくは後方に勢い良く飛び出すこと)の危険があります。このような圃場では浅く数回に分けて作業をし、抵抗棒があるものはその指示に従って下さい。

・バックする時は、子供や動物がいない事を確認して機械との間に挟まれたり、崖や段差のある所からの転落等がない様足場に注意して下さい。

・ベルトスリップによる異常な音・匂い・発熱は火災の原因です。その様な時は、すぐにエンジンを停止して点検・修理して下さい。

▲ 回転部分は危険です。特にロータリカバー内は危険ですので、身体を近付けないで下さい。

回転部分に絡みついた草、紐等を取り除く場合には必ずエンジンを停止した後に行ってください。

▲ 冷却風の吸入口、シリンダ付近の草詰まりはエンジンの焼付きや火災の原因です。

外側のみならず、内側もこまめに清掃して下さい。又、エアクリーナ内部の清掃も行ってください。

▲ 変速する場合には必ず主クラッチレバー、ロータリークラッチレバーは「切」位置にした後に行ってください。作業をしながらの変速操作は故障、ダッシング等の原因となり非常に危険です。

▲ 石や切り株や木の根等、危険物の多い場所では事前に石等の異物は取り除き、障害物の位置を確認した後に作業を始めて下さい。

▲ 旋回時には必ずロータリークラッチレバーは「切」位置にして下さい。ロータリが回転したまま旋回すると回転する耕うん爪に巻き込まれ、大ケガする恐れがあります。

▲ エンジン回転中及び停止直後排気マフラは高温になります。この時にマフラに手をかけると火傷を負う危険がありますので、絶対に手等を近付けないで下さい。

・作業中、石・木株などに当たった時は、直ちにエンジンを停止し、各部に異常がないか確認してください。

(7) 作業終了後の注意

・本機より離れる時は必ずエンジンを止め、燃料コックは閉めておいて下さい。

(8) 点検・整備時の注意

▲ 機械の点検・調整・整備をする時は、必ずエンジンを停止して下さい。

▲ ベルトやロータリ部の安全カバー、及び飛散防止用のカバー、フラップ類の破損は危険です。破損した場合は使用前に必ず修理しておいて下さい。

・取り外した回転部のカバー類は、必ず元の位置に正しく取り付けて下さい。

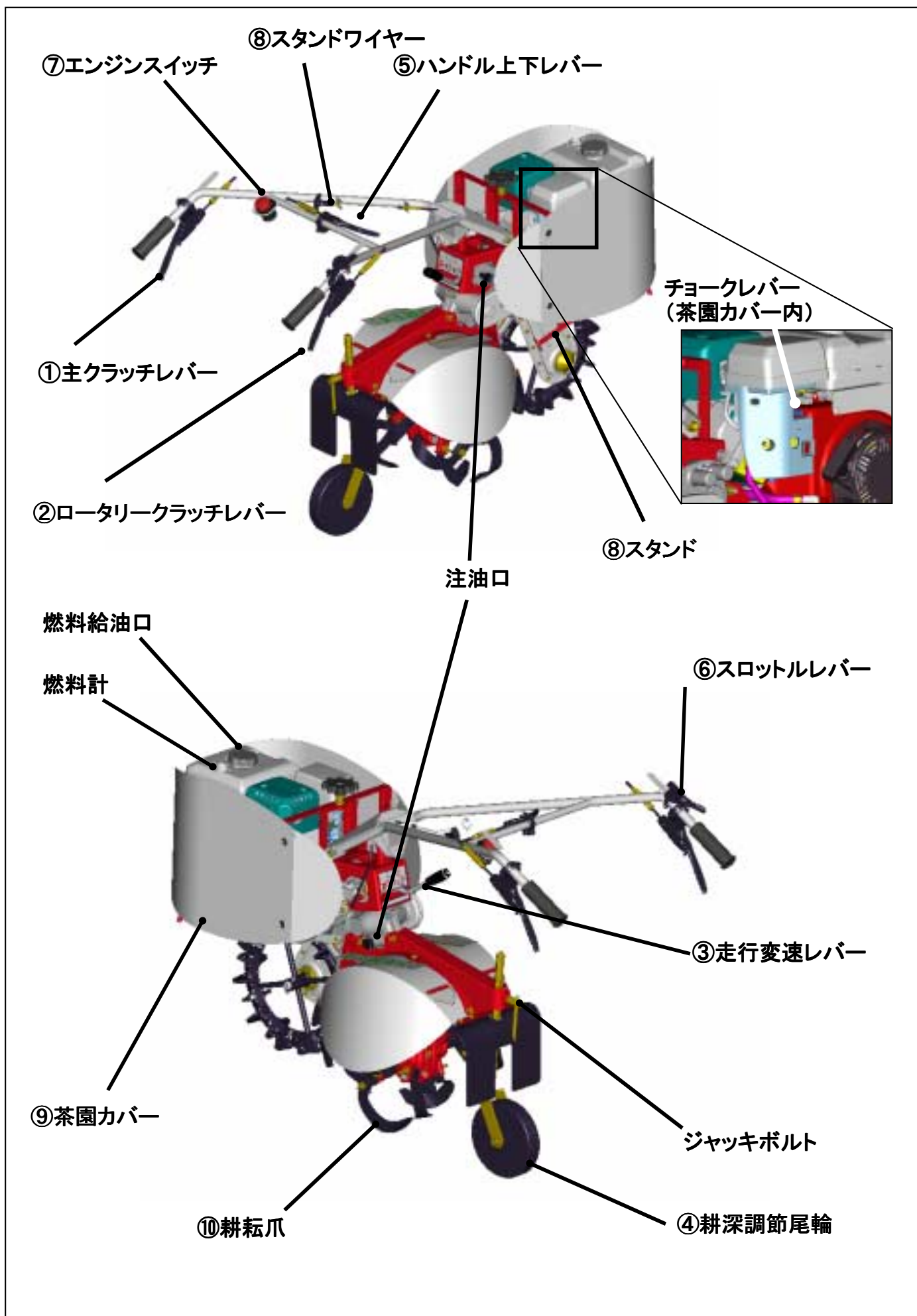
・爪取付ボルト・ナットも摩耗します。爪の交換時には同時に交換する様にして下さい。

▲ ゴムなどの燃料パイプは古くなると、燃料漏れの原因となり危険です。3年ごと、又傷んだ時には締め付けバンドとともに新品と交換して下さい。

・主クラッチ・ロータリークラッチ・スロットル・ギアチェンジ等の点検、調整は十分に行ってください。

・点検・整備を行う場合、又シートをかける場合は火傷や火災を防ぐため、マフラやエンジン本体の冷却状態を十分確認したうえで行って下さい。

《各部の名称》



《各部のはたらき》

①主クラッチレバー

エンジンからミッションへの動力を断続させます。

レバーを離れた状態で「入」、レバーを握ると「切」位置となり自動でストッパーが掛かるオートストッパー式クラッチレバーを採用しています。

ハンドルから手を離さずにクラッチの「入」、「切」操作ができます。

ストッパーを解除する場合は、ストッパーを握って解除してください。

②ロータリークラッチレバー

ミッションからロータリーへの動力を断続させます。

操作は主クラッチレバーと同様です。レバーを離れた状態で「入」、レバーを握ると「切」となり自動でストッパーが掛かります。

▲ 注意

安全のため、旋回時、トラックからの積み降ろしの際には、ロータリークラッチレバーは必ず「切」位置にして下さい。また、レバーを握る場合は必ずカチッと音がして完全にロックするまで握ってください。中途半端な状態のまま作業すると破損、事故等の原因になる恐れがあります。

③走行変速レバー

変速段数は前進が「前進1速」、「前進2速」の2段、「後進(R)」が1段です。

「前進1速」位置ではゆっくり、「前進2速」位置ではスピーディーな移動が行えます。

▲ 注意

主クラッチレバーを「入」位置のままに変速操作をしないで下さい。

ギヤが破損する恐れがあります。

④耕深調節尾輪

耕うん深さの調節を行います。ジャッキボルトを緩め“くぼみ”を目安に上下させ、お好みの深さに合わせてください。

◎尾輪を「上」に上げる…深くなる

◎尾輪を「下」に下げる…浅くなる

⑤ハンドル上下レバー

作業者の体格、及び作業状況に応じて調節できます。

レバーを握って、ロックを解除し作業に合わせてハンドルを上下させてください。

参考：

- ・ハンドルに力を加えながらハンドル上下の調整を行おうとすると、ロックが解除せず調整ができない場合があります。調整はロックを解除した後に行ってください。

⑥スロットルレバー

エンジン回転の増、減をおこないます。

⑦エンジンスイッチ

エンジンの回転を「入(ON)」、「切(OFF)」します。

⑧スタンド、スタンドワイヤー

機械を停車するときに使用できます。

スタンドを立てる時はエンジンを切り、機械が安定している事を確認してください。
作業を行う時はスタンドを元に戻してください。そのまま作業を行うと危険です。

⑨茶園カバー

メンテナンス等の際にノブボルトを外して回転することが出来ます。

作業を行う時はノブボルトがしっかり締まっている事を確認してから行って下さい。

⑩耕うん爪

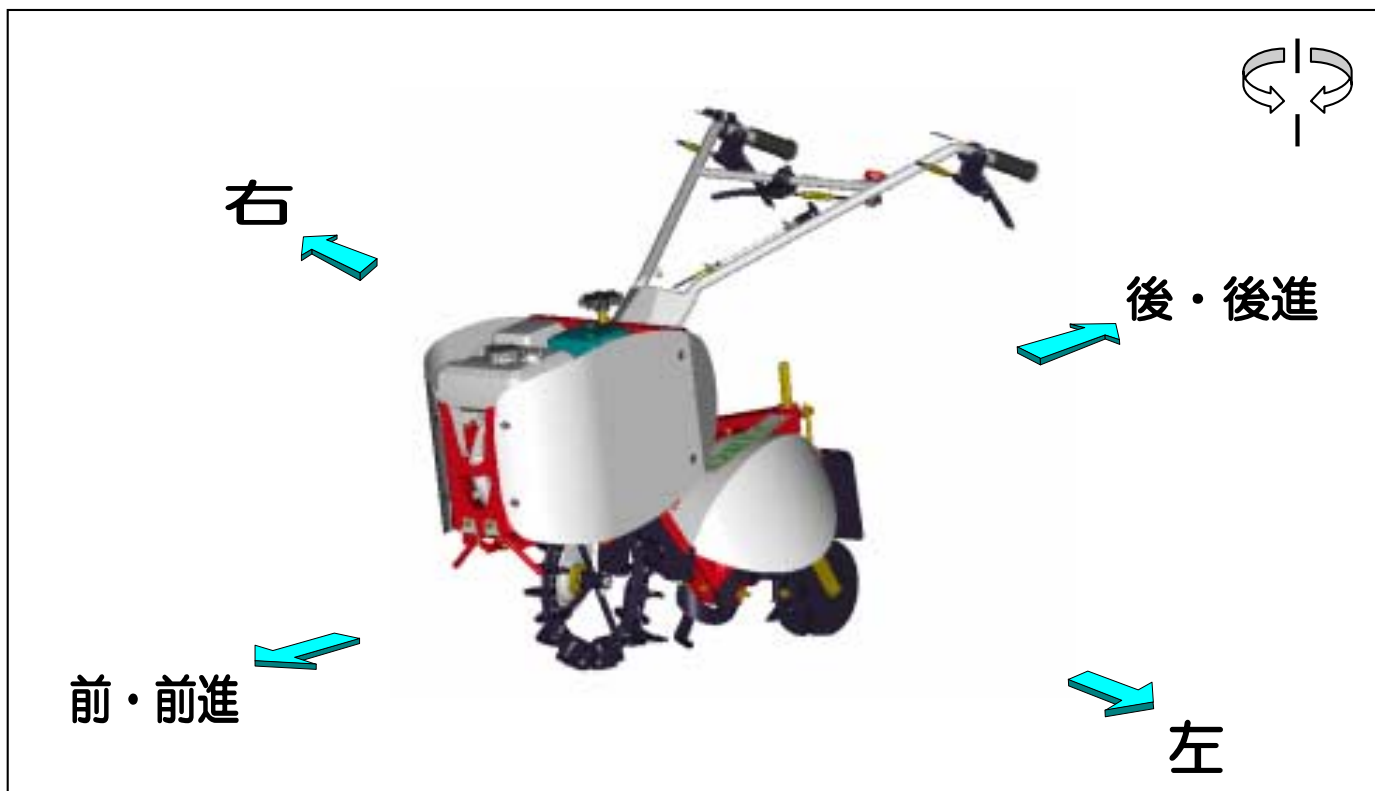
中耕ナタ爪です。摩耗したら全ての爪を新品に交換してください。

部分的な交換はしないで下さい。

《方向について…》

本機の前後左右は、下図のようにハンドルを持った作業者から見た方向で表します。

本文中の、「前進」・「後進」についても、作業者からみた方向で表します。



《機械を他人に貸すときは…》

所有者以外の人には使用させないのが原則ですが、やむを得ず機械を他人に貸す時には取扱い方法を説明し、「取扱説明書」をよく読んでもらい、取扱い方法や安全のポイントを十分理解してから作業をするように指導して下さい。

機械と一緒に「取扱説明書」も貸して上げて下さい。

親切心から機械を他人に貸して、借りた人が不慣れなために思わぬ事故を起こしたりするとせっかくの親切があだとなってしまいます。

《上手な運転のしかた》

運転前の始業点検

安全で快適な作業を行うために「定期自主点検表」〈26頁参照〉に従って始業点検をおこない、異常箇所は直に整備をしてから作業を始めて下さい。

▲ 注意

本機に貼られている注意、危険マークも良く読んで下さい。

エンジンの始動・停止のしかた

▲ 危険

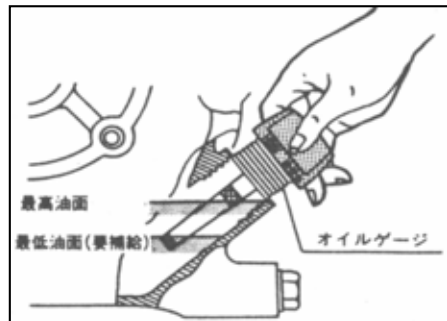
- ①締め切った室内でエンジンを始動及び暖機運転をしないで下さい。有害な排気ガスで空気が汚染され、ガス中毒をおこす恐れがあります。
- ②ガソリンエンジンを搭載していますので、くわエタバコや裸火照明はガソリンに引火する恐れがあり危険です。絶対に行わないで下さい。
- ③エンジンの始動時には、レバーの位置と周囲の安全を確認して下さい。

▲ 注意

- ・エンジンオイルの点検はエンジン停止後、エンジンが冷えるのを待って火傷に十分注意して行って下さい。
- ・本機には完成検査時のテスト用に予め約50ccのエンジンオイルが注油されています。注油するオイルの量はゲージの目盛を参考にして下さい。

■エンジンオイルの点検と補給

- ①エンジンオイルを確認して下さい。



- ◎給油栓がオイルゲージを兼用しています。オイルゲージの上と下の目盛線の間にはオイルがなければ上の目盛線までオイルが付くようにエンジンオイルを補給して下さい
目安量：0.6L

参考；

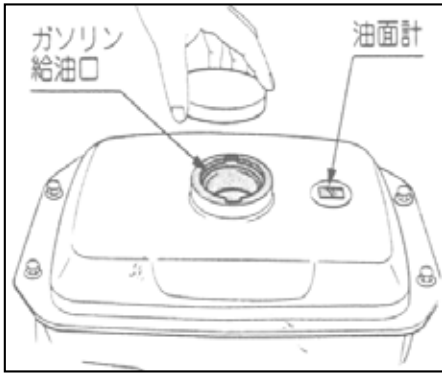
- ・エンジンは水平にして給油栓はねじ込まずに差し込んで点検して下さい。
- ・使用するエンジンオイルはSD級以上の良質の新しいオイルを使用し、気温によって次のように使い分けて下さい。

| |
|---|
| 夏期(10° C以上)・・・SAE30, SAE10W-30, 又はSAE40 |
| 冬期(10° C以下)・・・SAE5W20, 又はSAE10W-30 |

▲ 警告

- 燃料を入れる時には必ずエンジンを停止させてから行って下さい。
- エンジンとマフラが冷えた後、入れ過ぎて燃料をこぼさないように注意し、もしこぼれた場合にはきれいに拭き取って下さい。

■燃料の点検と補給



②燃料を確認して下さい。

燃料はレギュラーガソリンを入れて下さい。

〈燃料タンク容量は25頁…仕様参照〉

燃料計のゲージが「E」に近づいたら早めに燃料を補給して下さい。

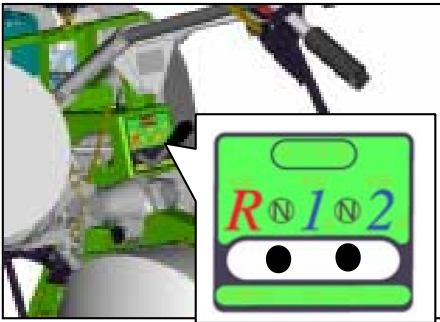
燃料補給後は給油キャップを確実に締め付けて下さい。
傾斜地での使用は、給油口内フィルタの規定油面上限以下で使用して下さい。〉

▲ 注意

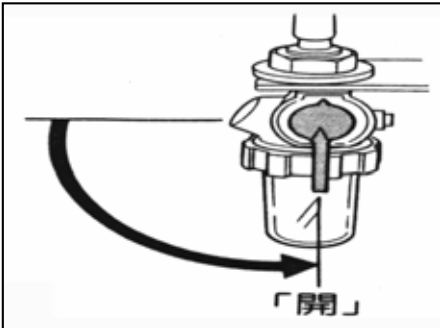
- 燃料は常に新しいもの使用して下さい。古い燃料又は長期間(3ヶ月以上)ポリタンクに保管した燃料は、エンジンの不調や破損の原因となることがあります。

■エンジン始動のしかた

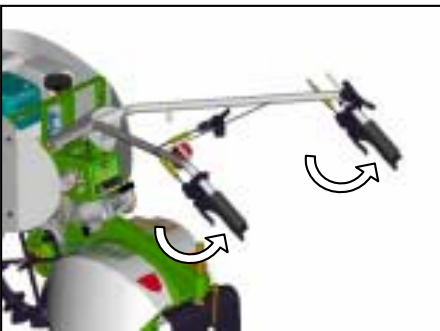
③走行変速レバーを「中立N」位置にして下さい。



④燃料コックを「開 (ON)」位置にして下さい。



⑤主クラッチレバー、ロータリークラッチレバーを「切」にして下さい

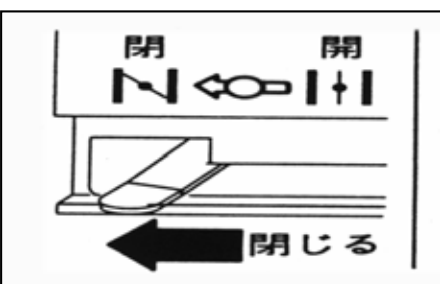


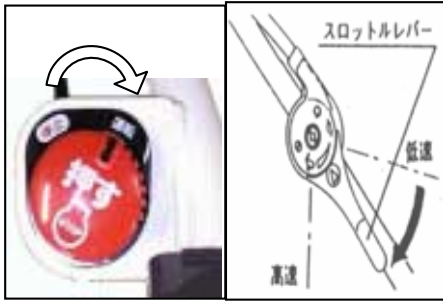
⑥チョークレバーを操作し、チョーク弁を「全閉」位置にして下さい。



参考；

気温が10℃以上の場合、及びエンジンが暖まっている時は、チョークレバーの操作は必要ありません。

※搭載エンジンによって操作方法が異なります。

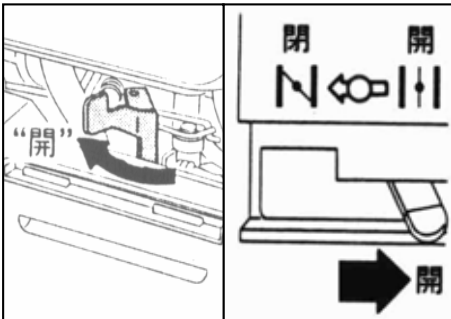






⑦スイッチを押しながら運転方向に回し、運転位置にしスロットルレバーを「」と「」位置の中間位置にして下さい。




⑧スタータノブを握り、ゆっくりと引いて圧縮を感じる位置から一旦戻した後、勢いよく引っ張って下さい。エンジンの始動後は、スタータノブは元の位置にゆっくりと戻して下さい。

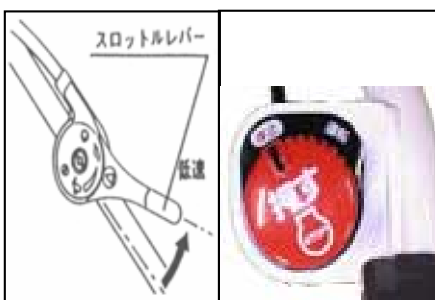


⑨エンジン始動後はチョークレバーを戻し、チョーク弁を「全開」位置にしてスロットルレバーを低速側「」位置でしばらく(5分程度)の暖機運転を行って下さい。暖機運転を行うことにより、エンジンの各部にオイルを行き渡らせ、エンジンの寿命をのばします。


※搭載エンジンによって操作方法が異なります。

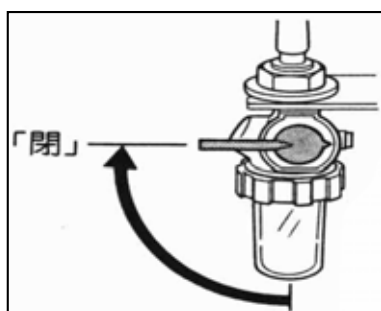
▲ 注意

- ・新製品購入後、最初の一週間(30~40時間)は、慣らし運転期間として、過負荷を掛けない様に控えめな運転を心がけて下さい。
- ・チョークレバーを「全閉」のまま使用すると、エンジン各部に悪影響を与え、エンジンの寿命を短くしますのでご注意下さい。



■エンジン停止のしかた

⑩スロットルレバーを低速「」位置にし、エンジンスイッチを「停止 (OFF)」位置にしてエンジンを停止して下さい。
(スイッチを押すと(停止 (OFF) 位置になります。)

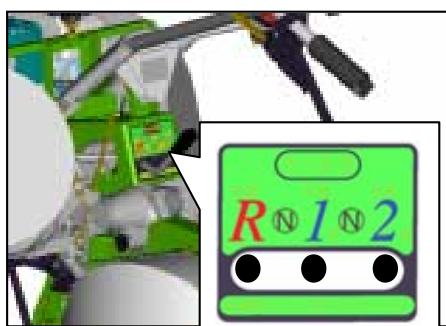


⑪最後に燃料コックを「閉 (OFF)」位置にして下さい。

走行・旋回・変速・停止のしかた

▲ 注意

- 所有者以外の人には使用させないで下さい。
- 走行するときは、周囲の安全を確かめてから発進して下さい。
 - ・側溝や路肩の走行は本機の重みで地盤が崩れる恐れがあります。地盤が軟弱な場所での使用は十分に注意して下さい。
 - ・車輪接地面の勾配が10°以上の傾斜地では、転倒・暴走の危険があります。このような場所での使用はしないで下さい。

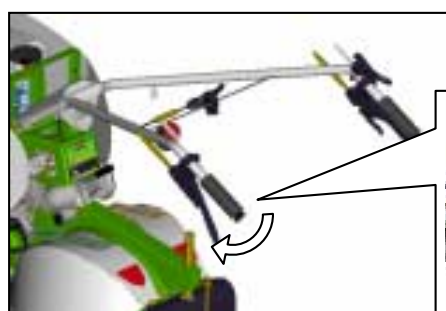


■走行のしかた

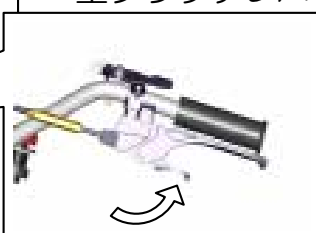
- ①エンジンを始動させて下さい。
〈9頁エンジン始動のしかた参照〉
- ②走行変速レバーを「前進①」・「前進②」・「後進」の中から所要の位置に確実にに入れて下さい。

▲ 注意

変速操作が不十分な場合、ギヤ抜けの恐れがあります。操作がやりにくい場合には、無理に入れずに主クラッチレバーを「入」方向へ少し動かしてから再度、操作を繰り返して下さい。

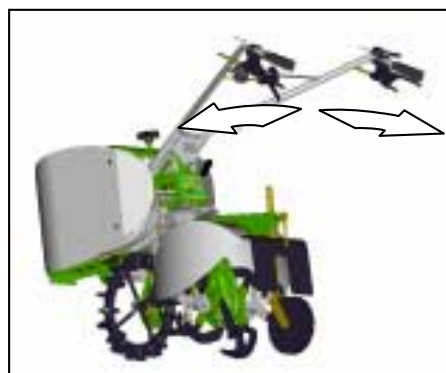


- ③スロットルレバーを「中速」位置とし、主クラッチレバーを「入」にすると走行開始します。



参考：

左図、ツマミ部分を握るとストッパーが解除され、「入」位置になります。



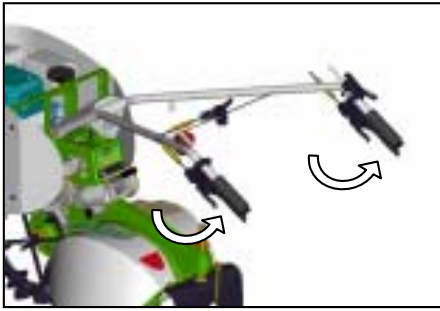
■旋回のしかた

- ④旋回は、ハンドルを少し持ち上げて旋回方向へ振りながら行って下さい。

▲ 注意

走行（移動）、及び旋回時にはロータリークラッチレバーは「入」にしないで下さい。回転するロータリーに巻き込まれ危険です。

■変速のしかた

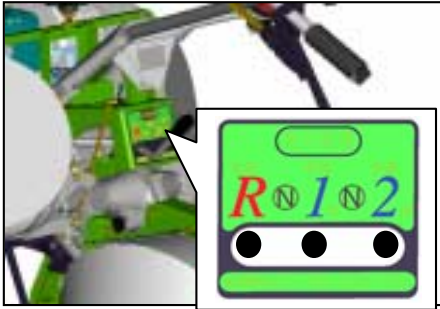


①主クラッチレバー、ロータリークラッチレバーを「切」位置にしてください。

②走行変速レバーを操作し、所要の変速位置に確実に変速してください。

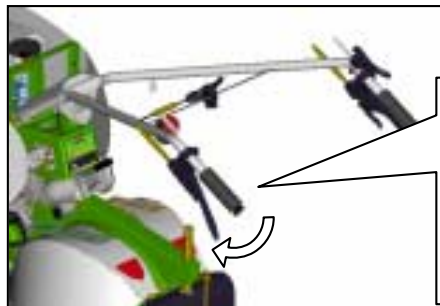
▲ 注意

走行しながらの変速操作は行わないで下さい。危険なばかりでなく、本機にも悪影響を与えます。

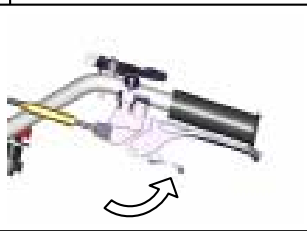


▲ 注意

移動時ロータリークラッチレバーは「入」位置には入れないで下さい。ロータリが回転し危険です。



③主クラッチレバーを「入」位置にし、再発進してください。



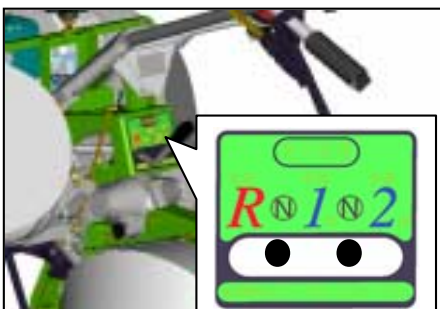
参考：

左図、ツマミ部分を握るとストッパーが解除され、「入」位置になります。

■停止（駐車）のしかた



①主クラッチレバーを「切」位置にし、本機を停止させて下さい。



②走行変速レバーを「中立」位置にし、本機を離れる場合には必ずエンジンを停止して下さい。
〈10頁エンジン停止のしかた参照〉

▲ 注意

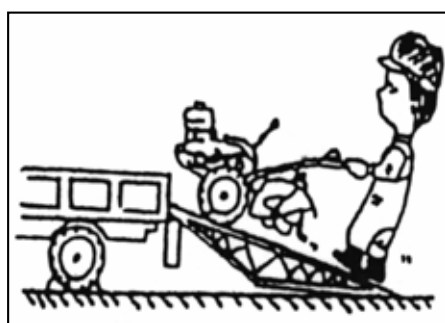
- ・本機は平坦で、周辺に障害となる物がない広い場所に駐車して下さい。
- ・本機を離れるときには、必ずエンジンを停止して下さい。



トラックへの積み降ろしのしかた

▲ 警告

- 運搬に使用する自動車は、荷台に天井のないトラックを使用して下さい。
- トラックへの積み降ろしは、平坦で安定した場所を選んで下さい。
- 本機の直前は危険です。誘導者を直前に立たせないようにして下さい。
- トラックへの積み降ろしの際には耕うん爪がブリッジと接触しない様、ハンドルを少し持ち上げ気味にして下さい。耕うん爪がブリッジの溝に絡み転倒する恐れがあります。
- ・ トラックは動き出さないようにエンジンを止め、サイドブレーキを引いて、確実に駐車をして下さい。
- ・ ブリッジのフックはトラックの荷台に段差のないよう又、外れないように確実に掛けて下さい。
- ・ 積み降ろし時にブリッジ上でレバー類の操作はしないで下さい。転倒の恐れがあります。
- ・ 本機のタイヤがブリッジの中央に位置するようにして作業を行って下さい。
- ・ 本機がブリッジとトラックの荷台との境を越える時には、急に重心の位置が変わりますので、十分に注意して下さい。
- ・ トラックに積んで移動する時には、変速位置を「前進①」とし、十分に強度のあるロープで本機を確実に固定し、更に荷台の上で動かないよう「車止め」を掛ければさらに安全です。
- 本機を必要以上に傾けないで下さい。燃料が漏れ出し、引火した場合には火災や死傷する恐れがあります。

■ 積み降ろしのしかた



- ① 周囲に危険物のない、平坦な場所を選んで下さい。
- ② 基準にあったブリッジを使用して下さい。
- ③ スロットルレバーは「」、「」の中間位置にして下さい。
- ④ 積み込む場合は「前進①」、降ろす場合は「後進」位置で行い、その他の位置には入れないで下さい。

参考：ブリッジ基準

ブリッジは基準にあった、十分な強度のあるものを使用して下さい。

- 長さ…トラック荷台の高さの3.5倍以上あるもの。
- 幅…本機の車輪幅にあったもの。
- 強度…本機重量、及び作業者の体重の総和に十分絶え得るもの。
- スリップしないように表面処理が施してあるもの。

《上手な作業のしかた》

耕うん作業のしかた

▲ 警告

- 特に固い圃場では、ダッシングが発生しやすく大変危険です。このような圃場では浅く数回に分けて作業をして下さい。
- ロータリカバー内の草やその他の異物を取り除く場合には、必ずエンジンを停止した後に行ってください。特に作業中のローターには近づかないで下さい。
- バック作業は絶対に行わないで下さい。ダッシング等大変危険です。
- 作業中はハンドルを軽く支えるだけにし、無理に下に押しつけないで下さい。本機に無理な力がかかるばかりでなく、場合によっては本機がロータリの回転反力で前方もしくは後方へ飛び出す（ダッシング）恐れがあります。
- ストップスイッチを押すとエンジンが停止します。緊急の場合にはストップスイッチを押して本機を停止させて下さい。
- 圃場は旋回するのに十分なスペースを取って下さい。特に段差がある圃場などでは機械が転落したりする恐れがあり、大変危険です。

■ハンドル高さの調整のしかた

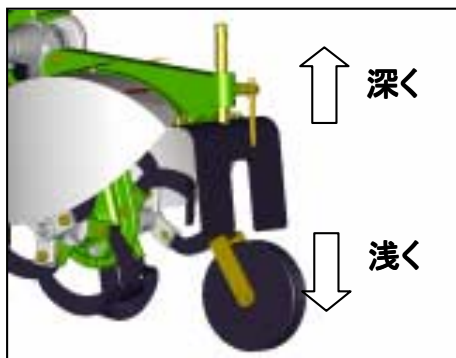


ハンドル高さは、作業や使う人の体格によって4段階に調整することができます。

手元のハンドル上下レバーを握り、適当な位置に合わせてハンドル上下レバーを外して下さい。

ハンドルを少し上下させ、ハンドルが固定されている事を確認してください。

■耕うん深さの換えかた



耕うん深さの調節は、耕深調節棒の上下によって行います。調節は尾輪の“くぼみ”を目安に行ってください。

ジャッキボルトを緩めてから尾輪を上下させ所定の位置で“くぼみ”に合わせて、ジャッキボルトを閉めて固定して下さい。

尾輪を「上」に上げる…深くなる

尾輪を「下」に下げる…浅くなる

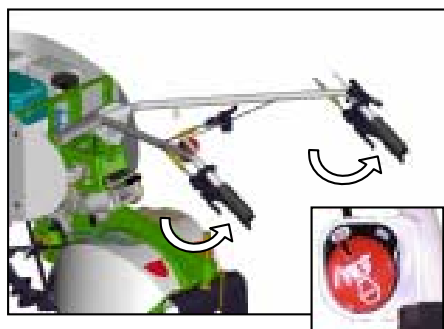
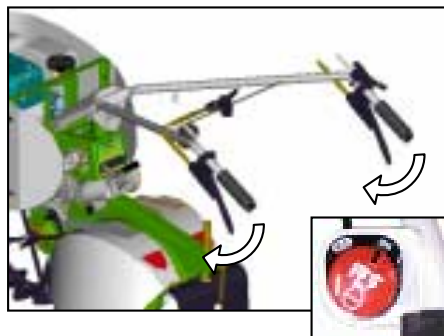
参考：

「尾輪」の操作が重くなったときにはロータリカバー内の「尾輪」の可動部分に詰まった泥草等の異物を取り除いてください。


▲ 警告

- ・ロータリカバー内の清掃は必ずエンジンを停止した後に行ってください。エンジンをかけたままの清掃は、急にロータリが回転した場合等非常に危険です。
- ・石等の固い異物が多い畑や、土がしまって固い畑などでの使用は機械の飛び出し(ダッシング)が多く危険なばかりでなく、本機の故障の原因ともなりますので、石等の固い異物は事前に取り除き、土がしまって固い畑では浅く数回に分けてご使用下さい。特に最初は浅めの耕耘から開始してください。

圃場での耕うん作業



■ 耕うんのしかた

- ① 耕耘爪が正しく取り付けられている事を確認して下さい。
〈23頁耕耘爪の点検と交換のしかた参照〉
- ② ハンドル高さ、耕耘深さを調整して下さい。
〈14頁ハンドル高さの調整のしかた参照〉
〈14頁耕耘深さの調整のしかた参照〉
- ① エンジンを始動して下さい。
〈9頁エンジン始動のしかた参照〉
- ② 走行変速レバーを所要の位置に入れて下さい。
〈12頁エンジン始動のしかた参照〉
- ③ スロットルレバーを「」位置にして下さい。
- ④ ロータリークラッチレバー、主クラッチレバーの順で「入」位置にして作業を開始して下さい。

■ 作業の止め方

- ① 作業を終了する場合には、主クラッチレバー、ロータリークラッチレバーの順に「切」位置にしその後エンジンを停止して下さい。
〈10頁エンジン停止のしかた参照〉

▲ 注意

- ・ 主クラッチレバー、ロータリークラッチレバーは半クラッチの状態では使用しないで下さい。ベルトがスリップしたりギヤの破損の原因になり早期摩耗に繋がります。

参考：

湿った圃場での作業では、ロータリカバー内に泥が付着し、タイヤがスリップしたり、過負荷が掛かってエンジンがストップしたりする事があります。このような場合にはエンジンを停止し、付着した泥を取り除いて下さい。

▲ 警告

- ・ 圃場の出入り口は特に土が締まって固くなっています。
ローターを浮かしてから回転させてゆっくり沈み込むように土につけるとスムーズに作業を行う事が出来ます。
- ・ 整枝直後など枝葉が大量に堆積している場合はカバー内に詰まりエンジンがストップしたりする事があります。このような場合にはある程度時間を置いて、枝葉が脆くなってから作業を行って下さい。
- ・ 作業中、回転しているロータリカバー内部に手や足が入ると大ケガをする恐れがあります。耕うん作業中は必ずロータリカバー内には手や足を入れないで下さい。

上手な作業の例

■初めての作業

初めて耕うんする場合には、浅めに仕上げるつもりで作業をして下さい。

■作業の例

①肥料のかき混ぜ

- ・耕深調節尾輪は浅めにして下さい。
- ・前進2速で行うと効率良く作業できます。
- ・本機がダッシングするときには、ハンドルを軽く持ち上げ気味にするとスムーズな作業ができます。

②深耕作業(深めの作業)

- ・耕深調節尾輪をやや深めにして下さい。
- ・前進1速で作業を行って下さい。
※深めの作業を行う際は2速での作業は控えてください。過負荷がかかり本機に悪影響を与える恐れがあります。
- ・本機がダッシングするときには、ハンドルを軽く持ち上げ気味にするとスムーズな作業ができます。
※ハンドルを押さえつけたりして無理に深く耕そうとしないで下さい。過負荷がかかり本機に悪影響を与える恐れがあります。

③深耕機などを使用した後のならし作業

- ・耕深調節尾輪はやや浅めにして下さい。
- ・前進2速で行うと効率よく作業できます。
- ・その後の作業機を効率よく行えるのに適した仕上がりとなります。

④整枝後の作業

- ・耕深調節尾輪はやや浅めにして下さい。
- ・耕うん作業を行って下さい。
- ・枝葉などの堆積物が土と混ざり分解を早めます。
※整枝後、枝葉が大量に堆積した状態ですぐに作業を行うとカバー内に詰まりエンジンがストップする事があります。その場合は耕深調節尾輪をさらに浅くして使用するか、しばらく時間を置いて堆積物がある程度脆くなってから作業を行って下さい。

▲ 注意

- ・ダッシングが起こる場合には無理をせず、耕深調節棒を浅めにし、数回に分けて作業を行って下さい。
- ・作業開始時の始業点検時には必ず“爪”の摩耗具合も確認し、必要に応じて新品と交換して下さい。

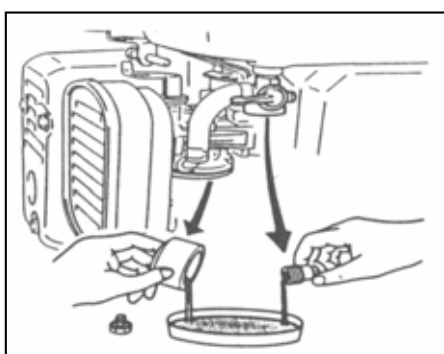
《長期保管のしかた》

⚠ 危険

■エンジンを停止して下さい。〈10頁…エンジン停止のしかた参照〉

- ・燃料を抜く時は風通しの良い場所で、くわえタバコや裸火照明等の火気には十分注意し、抜いた燃料の取扱いには十分に注意して下さい。
- ・本機は、固い平坦な場所で水平にして保管して下さい。
- ・燃料タンク内のガソリンを抜く時、又は本機にカバーをかける時にはエンジンとマフラが十分に冷えているのを確認してからにして下さい。

①本機を30日以上使用しないときは、燃料変質による始動不良、又は運転不調にならないように燃料タンク及び気化器内の燃料を抜き取って下さい。



- ・燃料タンク内の燃料は、燃料フィルタポットを外し、受け皿等を当ててから燃料コックを「開(OFF)」位置にして抜き取って下さい。
- ・気化器内の燃料は下部のフロート室締め付けボルトを外して抜いて下さい。

②エンジン及び本機の外面をオイルの染みた布で清掃して下さい。

③エンジンオイルを交換して下さい。〈19頁…エンジンオイル交換参照〉

④各部の清掃を十分に行って下さい。特にリコイルスタータ・エアクリーナ・マフラ・気化器付近やベルトカバー内に堆積した泥やホコリをエア吹き等できれいに取り除き、サビが出ている箇所はサビを取り除いて防錆塗料を塗布しておいて下さい。

…泥やホコリが堆積したまま作業を続けると…

泥等による目詰まりでエンジンが過熱し、焼き付や火災の原因にもなりかねません。

参考:

ロータリカバー内に付着した泥や草屑は、これが乾かない内にホース等で加圧した水で清掃を行うと比較的に簡単に洗い落とすことができます。

▲ 注意

このとき、エンジンの電装関係や気化器、エアクリーナ、マフラ排気口に水がかからないようにカバーをかける等して注意して下さい。エンジン始動不良の原因になります。

⑤各給脂・注油箇所にそれぞれ注油をして、不具合箇所は修理しておいて下さい。

⑥屋根のある風通しの良い湿気の少ない場所に本機を水平にして保管して下さい。

⑦本機にカバー等をかけて、ほこりがつかないようにして下さい。保管中は、定期的にタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて空気を入れて下さい。(該当機種)

(*本機カバーは付属していません。)

《各部オイルの点検・交換・注油のしかた》

▲ 注意

- 当製品には、エンジンオイル・ギヤオイルともに注油されておりません。
初めてご使用になる前には必ず各部に良質のオイルを指定の箇所に指定の量だけ確実に注油して下さい。
- ・定期的なオイルの交換は、本機を常に最良の状態で使用するために是非必要です。
- ・各部オイルの点検・交換をする場合には必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを暖機運転した後停止し、本機各部が触っても熱くない程度に冷えるのを(約5分以上)待ってから作業を行って下さい。

…エンジン停止後、すぐに作業を行うと…

- ・ エンジン本体各部はかなりの高温になっており、火傷の危険があります。
- ・ エンジン停止直後はエンジン各部、ミッション各部にオイルがまだ残っており、正確なオイル量が示されません。
- ・ 安全のため、作業が終了するまで点火プラグキャップは点火プラグより外して下さい。

■交換後の廃油は適切な処理をして下さい。■

ミッションオイルの点検・交換・注油

◎点検…

点検は、ミッションケース右側面上部、及びロータリーケースの注油口を外して確認して下さい。注油口を通してミッションオイルが確認できればほぼ規定量のミッションオイルが入っています。



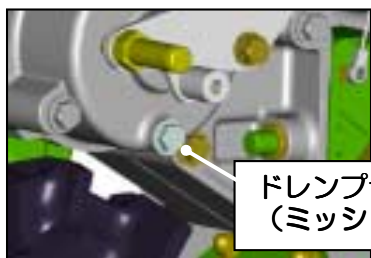
注油栓
(ミッション)



注油栓
(ロータリー)

◎交換・注油…

交換は、オイルを受け取る適当な容器を用意し、初回は20時間目、それ以降は100時間を目安にミッションケース左側面下部のドレンプラグ(排油栓)を外して行って下さい。注油は、ドレンプラグ(排油栓)を取り付けた後、注油口より、ミッションオイル(#90)を0.8ℓづつ入れて下さい。



ドレンプラグ
(ミッション)



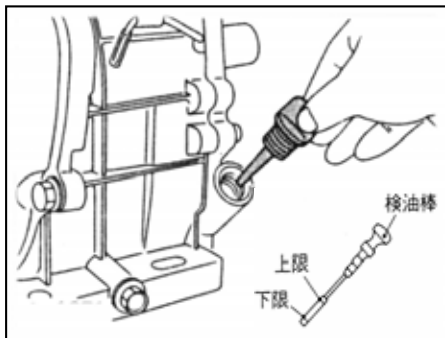
ドレンプラグ
(ロータリー)

- 注油後は、注油栓を脱落のないように最後までしっかりと押し込んで下さい。
- ドレンプラグ排油栓のガスケットが取り付け面に接触してから更に3/4回転ねじ込んで下さい。

交換の目安

初回：20時間目、2回目以降：100時間毎

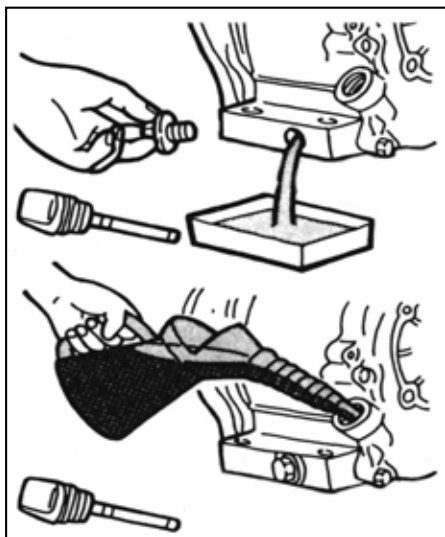
エンジンオイルの点検・交換・注油



◎点検…

- ・給油栓についているレベルゲージで、エンジンオイルの質・量を毎日、もしくは8時間使用毎に点検して下さい。レベルゲージはねじ込まずに点検します。
- ・常にレベルゲージの上限までエンジンオイルは入れておいて下さい。

◎交換・注油…



- ①オイルを受け取る適当な容器を用意し、オイル給油栓を外した後、ドレンプラグ(排油栓)を工具を使って外して下さい。(ドレンプラグの位置はエンジンにより異なります。)
- ②抜き終わったら元の通りにドレンプラグをしっかりと締め付けて下さい。
- ③8頁を参照しながらエンジンオイルを注油して下さい。
〈エンジンオイル量は25頁《仕様》参照〉
- ④エンジンオイル注油後、オイルがにじみ出ないように、注油栓はしっかりと締め付けておいて下さい。

参考；

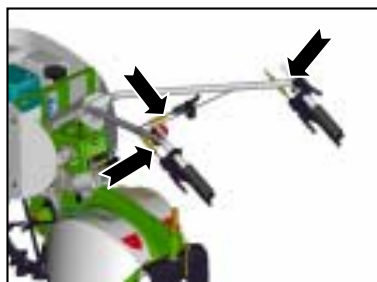
- 初回は5時間目、それ以降は25時間運転毎に交換して下さい。
- 但し、負荷条件の厳しい作業条件や高温環境で連続長時間使用される場合は、上記時間に達する前、早めの交換（約半分の時間）をおすすめします。

交換の目安

初回：5時間目、2回目以降：25時間毎

各部への注油のしかた

- 約30時間毎にエンジンオイル(#30)を操作しながら注油して下さい。注油を怠ると、油切れにより操作が重くなり、破損する恐れもあります。



主クラッチ、ロータリークラッチワイヤ
ハンドル上下ワイヤー



テンションボス

《各部の点検・整備・調整のしかた》

エアクリーナの清掃のしかた

⚠ 危険

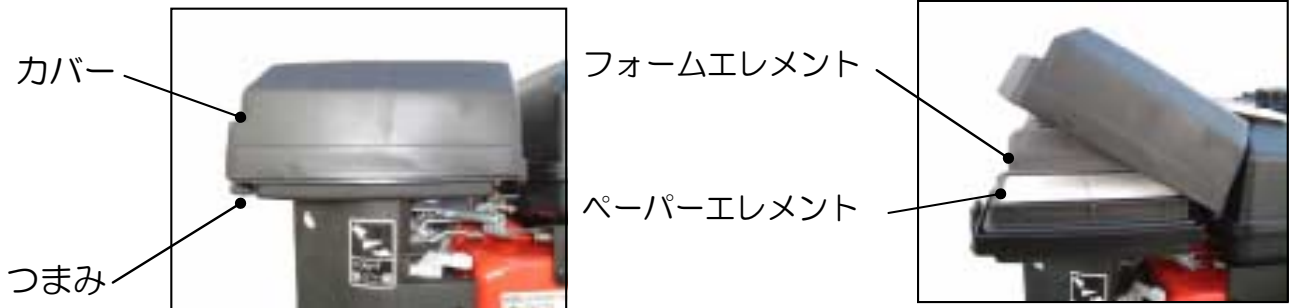
●エアクリーナ・リコイルスタータが草屑等で目詰まりを起こしたまま作業を続けると出力不足や燃料消費が多くなるばかりでなく、排ガス温度が上昇することにより燃料への引火火災の原因ともなり大変危険です。必ず定期的に点検し清掃して下さい。

…エアクリーナを外したままエンジンを始動させないで下さい。

ゴミやほこりをエンジン内部へ吸い込み、エンジン不調や異常摩耗の原因となります。

■乾式

メイキ GB130



- ①カバーを取外し、ホコリやゴミを気化器側へ入れないように注意深くフォームエレメントとペーパーエレメントを取り出してください。
- ②フォームエレメントは、白灯油（又は中性洗剤）で洗浄後、よく絞り乾燥させて下さい。
- ③ペーパーエレメントは軽く叩くか、内部からエア吹きしてホコリやゴミを落として下さい。
- ④ケース内部の汚れをウエス等でふき取り、カバーを元のとおり組み付けて下さい。

参考；

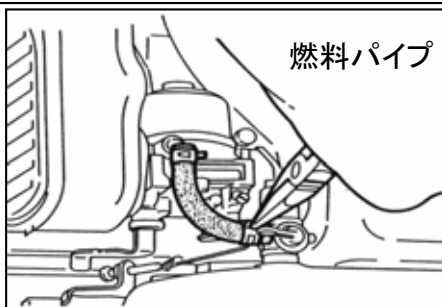
・洗浄時、フォームエレメントを強く引っ張ったりもんだりしないで下さい。エレメントが破れ使用できなくなります。

…エアクリーナの清掃、交換時期について…

| | 清掃 | 交換 |
|-----------|---------|--------|
| フォームエレメント | … 25時間毎 | 100時間毎 |
| ペーパーエレメント | … 50時間毎 | 200時間毎 |

チリやホコリの多い作業環境での使用は頻繁に清掃するように心掛けて下さい。

燃料パイプの点検のしかた



⚠ 危険

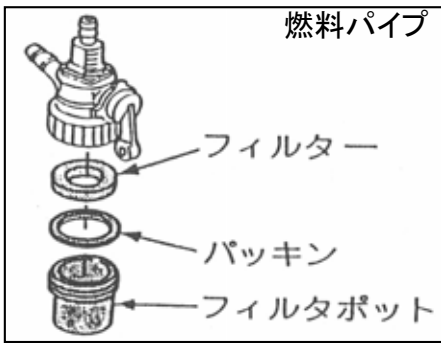
くわえタバコや裸火照明での作業禁止

- ・燃料パイプなどのゴム製品は、使わなくても劣化します。締め付けバンドと共に3年ごと、または傷んだ時には新品と交換して下さい。
- ・パイプ類や締め付けバンドが緩んだり、傷んだりしていないか常に注意して下さい。

参考；

パイプ類の交換時に、パイプ内にホコリやチリが入らないように注意して下さい。

燃料フィルタポットの清掃のしかた



⚠ 危険

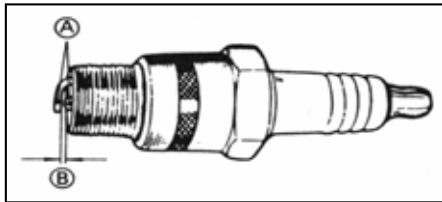
くわえタバコや裸火照明での作業禁止

- ・50時間使用ごとに燃料コック内部を清掃して下さい。
- ・作業はホコリやチリのない清潔な場所で行って下さい。
 - ①燃料コックを「閉(OFF)」位置にして下さい。
 - ②燃料フィルタポットを外し、底にたまっている沈殿物(ゴミや水等)及びフィルタを引火性の低い灯油等の溶剤で洗浄し、エアを吹き付けて乾燥させて下さい。

⚠ 警告

ガソリンやシンナ等の引火性の高い洗浄油は危険ですから使用しないで下さい。

点火プラグの点検・調整のしかた



- ①プラグレンチで点火プラグを外し、電極部分Aにカーボンが付着していたらワイヤブラシでこれを除去し、湿りがあればこれを拭き取って下さい。
- ②中央陶器部にヒビワレ、また電極部分に消耗が認められた場合には点火プラグを新品と交換して下さい。
- ③点火プラグの電極隙間Bを0.7～0.8mmに調整して下さい。

参考；

締め付け時は、初め手で軽くねじ込んでからプラグレンチを使用して下さい。
初めからプラグレンチで締め込むと、ネジ山を潰すことがありますので注意して下さい。
〈点火プラグ基準…25頁《仕様》参照〉

《そのほかの点検》

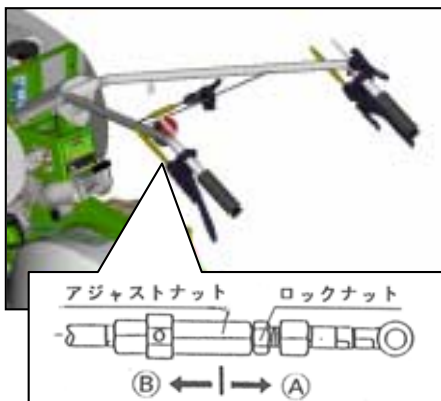
- ①各操作レバーが正しく作動するか確かめて下さい。(毎回始業時)
- ②Vベルトは初期伸びしますので、2～3時間運転後に再調整して下さい。
〈22頁…主クラッチワイヤ調整参照〉
- ③本機を少し動かして異常音、異常発熱の有無を調べて下さい。
- ④各部を十分に馴染ませる為、最初の2～3時間は無理な作業はさけて下さい。
- ⑤作業後の手入れ、及び定期的な点検も忘れずに行ってください。
〈26頁…定期自主点検表参照〉
- ⑥各部のボルト・ナット・ピン類に緩み、脱落がないか確認して下さい。
- ⑦本機全体を見回し、各部にオイルの漏れがないか点検して下さい。
 - もしオイル漏れが確認できた場合には、お買い上げの販売店へご相談下さい。
 - オイル漏れの状態で使い続けると危険なばかりか、本機の破損にもつながります。

各部ワイヤ・ベルト調整のしかた

▲ 注意

各ワイヤを調整する前には必ず本機を平坦な広い場所に置き、調整はエンジンを停止して行って下さい。

図1



■主クラッチワイヤ調整

図1を参考に主クラッチワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

□走行クラッチを入れても負荷がかかるとベルトがスリップして本機が停止する場合。

…アジャストナットをAの方向へ…

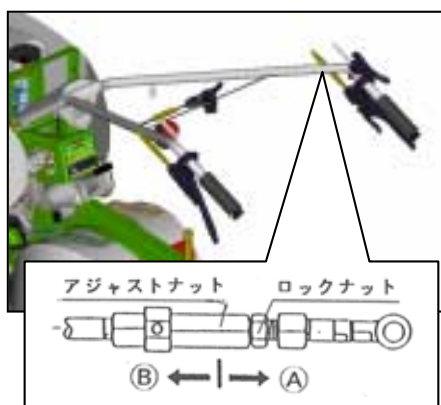
□走行クラッチレバーを切ってもベルトが付回りして本機が停止しにくい場合。

…アジャストナットをBの方向へ…

参考：

主クラッチレバーが「入」位置の時、ワイヤーの遊びが5mm程度になるように調整して下さい。ワイヤーを張りすぎるとベルトの張力が無くなり、ベルトスリップの原因になり、早期摩耗に繋がります。

図2



■ロータリークラッチワイヤ調整

図2を参考に、ロータリークラッチワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

□ロータリークラッチを「入」位置に入れても負荷がかかるとロータリーの回転が停止する場合。

…アジャストナットをAの方向へ…

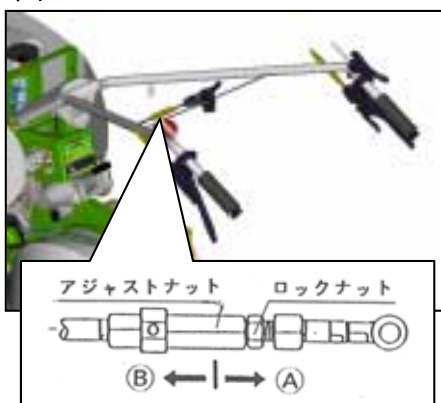
□ロータリークラッチを「切」位置に入れてもロータリーの回転が停止しない場合。

…アジャストナットをBの方向へ…

参考：

ロータリークラッチレバーが「入」位置の時、レバー根元での遊びが5mm程度になるよう調整して下さい。

図3



■ハンドル上下ワイヤ調整

図3を参考に、ハンドル上下ワイヤのアジャストナットで調整して下さい。

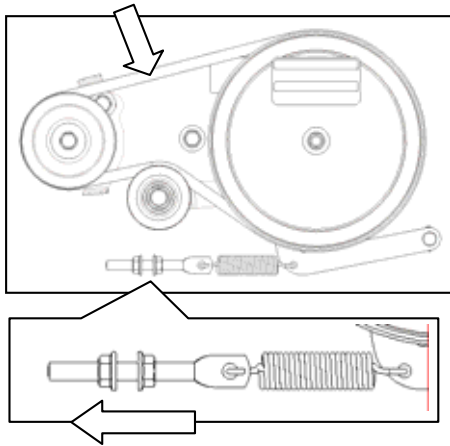
□作業中、ハンドル上下が抜ける。負荷がかかるとロックが外れる場合。

…アジャストナットをAの方向へ…

□レバーを握ってもハンドル上下が解除されない場合。

…アジャストナットをBの方向へ…

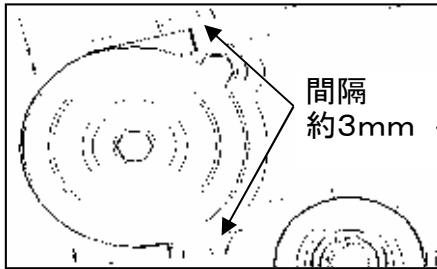
■調整後、ロックナットを確実に締め付けておいて下さい。



■ベルト調整

主クラッチレバーが「入」位置のとき、ベルト中央部を軽く指で押してみて5～6mm程度のたわみがあれば正常です。ベルトのたわみが大きいときはアジャストボルトを張って調整して下さい。その後、主クラッチワイヤーの調整も行うようにして下さい。

これらの調整だけでベルトのたわみが収まらない場合は左図を参考にエンジンを前方へずらしてベルトの張りを調整して下さい。



ベルトの交換・調整を行った場合には、同時にベルト押さえの調整も行して下さい。(一体型になっています。)主クラッチレバーが「入」位置のとき、ベルトとベルト押さえの間隔が3mm程度になるようにベルト押さえの位置を調整して下さい。

目安として、主クラッチレバーが「切」位置のとき、ベルト押さえがエンジンプーリの1/3程度の位置でベルトを軽く押さえ、ベルトがエンジンプーリの溝より軽く浮き上がるようにセットします。

ベルトは消耗品です。常時点検し、異常があれば新品と交換して下さい。

ベルトがスリップ等で熱を持つと、寿命は極端に短くなります。

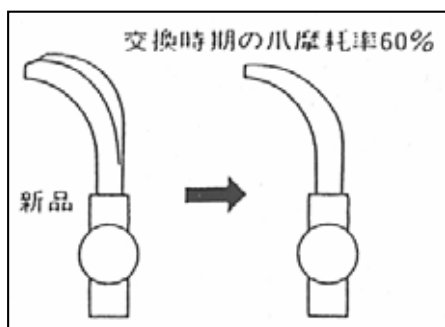
| | |
|--------|----------------------|
| ベルトサイズ | SA33 SG1000×1本 |
| 調整時期 | 初回：2～3時間目 以降：50時間運転毎 |

■調整後は、ロックナット・ボルト・ナットを確実に締め付け、取り外したカバー類は元通りに取り付けておいて下さい。

耕うん爪の点検と交換のしかた

▲ 警告

耕うん爪の点検及び交換は、必ず本機を平坦な広い場所に置いてエンジンを停止し、点火プラグキャップを外した後十分安全を確認して行って下さい。



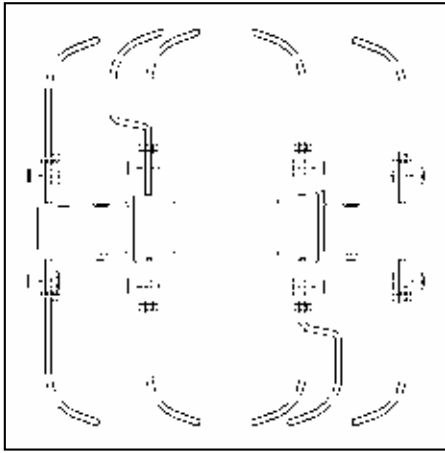
■点検

耕うん爪は始業前に必ず損傷・曲がり及び摩耗を点検して下さい。又、爪取付部のガタがないかも点検し、もし弛みがあれば増し締めをして下さい。

■交換

爪の摩耗度が左図のようになったら交換時期です。爪の交換と同時に取付ボルトの交換も行うようにし、部分的な交換は行わず、全数一度に交換して下さい。

■配列



耕うん爪の取付ボルトを外して爪を交換して下さい。
 耕うん爪を取り付ける時には、左図を参考にして爪先端の曲がり方向及び偏心爪位置に注意して締付ナットで確実に固定して下さい。

参考:

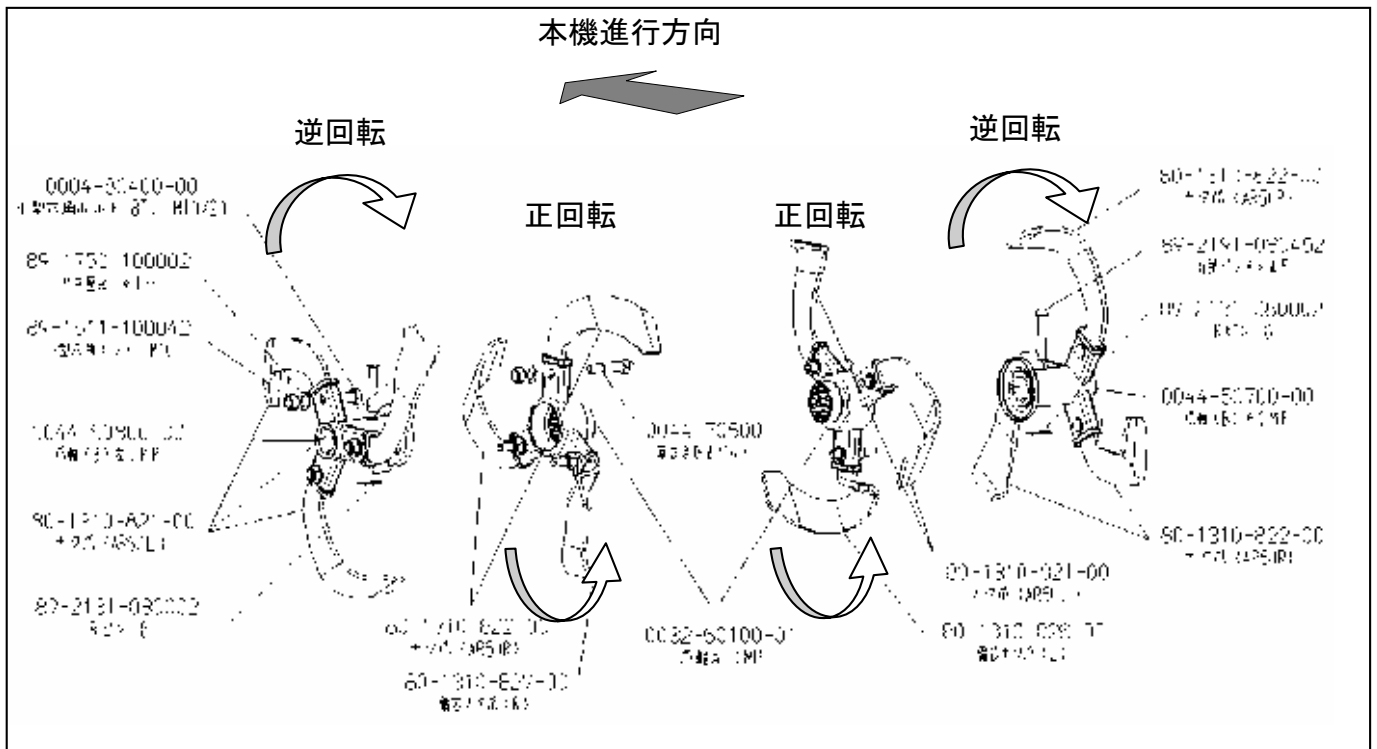
耕うん爪の回転方向にも注意して下さい。
 耕うん爪の取付け位置を間違えると、残耕発生の原因となります。

詳細は次項の爪組付け図をご覧ください。

—本機後方より見た図です。—

参考

爪組付け図



《消耗品明細》

| No | 部品名 | 部品番号 | 個数/台 | 備考 |
|----|---------------|----------------|------|-------------|
| 1 | ベルト | 89-6122-003303 | 1 | LA33 SG1000 |
| 2 | 耕耘爪L | 89-1310-821-00 | 4 | 刻印 (AR50L) |
| 3 | 耕耘爪R | 89-1310-822-00 | 4 | 刻印 (AR50R) |
| 4 | 偏心耕耘爪L | 89-1310-826-00 | 2 | 刻印 (AR50SL) |
| 5 | 偏心耕耘爪R | 89-1310-827-00 | 2 | 刻印 (AR50SR) |
| 6 | 爪取付ボルトsetB | 83-1321-835-00 | 6 | M10 (小頭ボルト) |
| 7 | 草巻付防止ボルト | 0044-70500 | 6 | M10 (小頭ボルト) |
| 8 | 主クラッチワイヤー | 89-6122-003202 | 1 | M10 (小頭ボルト) |
| 9 | ロータリークラッチワイヤー | 89-6122-003202 | 1 | M10 (小頭ボルト) |
| 10 | スロットルワイヤー | 89-6122-003202 | 1 | M10 (小頭ボルト) |
| 11 | 警告マーク | 89-6122-003202 | 1 | M10 (小頭ボルト) |

※爪取付ボルトを注文の際は部品番号に注意して下さい。

《仕様》 (参考数値)

| | | | |
|--------------------|--------------|----------------------------------|-------|
| 名称 | | ティーローター | |
| 型式 | | TR300 | |
| 全長×前幅×前高(mm) | | 1250×600×960 | |
| 茶園カバー外幅(mm) | | 340 | |
| 重量 (kg) | | 63 | |
| タイヤサイズ | | φ350 カルチタイヤ | |
| ハンドル上下 | | ワンタッチ可変式 (4段階調整) | |
| 主クラッチ方式 | | オートストッパークラッチレバー式 (ベルトテンション) | |
| ロータリークラッチ方式 | | オートストッパークラッチレバー式 (ギヤ噛合) | |
| Vベルト | | スーパーゴールド1000 ×1本 | |
| 中耕ロータリー/作業幅 | | 300mm | |
| 中耕ロータリー/爪本数 | | ナタ爪 左 (直×4/偏×2) 右 (直×4/偏×2) 計12本 | |
| オイル(ℓ) | ミッション | 0.8 (#90) | |
| | ロータリー | 0.8 (#90) | |
| ロータリー 回転数 (rpm) | 正転 | 181 | |
| | 逆転 | 176 | |
| 速度 (km/h) | 前進 | ①1.16 | ②2.59 |
| | 後進 | 1.16 | |
| 安全装置 | | プッシュスイッチ | |
| エンジン | 名称 | ミツビシ | |
| | 型式 | GB130 (減速) | |
| | 潤滑油量 (ℓ) | 0.6 | |
| | 最大出力 (KW/PS) | 3.0/4.2 | |
| | 始動方式 | リコイルスターター | |
| | 総排気量 (cc) | 126 | |
| | 点火プラグ (NGK) | BP6HS | |
| | タンク容量 (ℓ) | 2.5 | |

※本仕様は予告なく変更する事があります。

《工具袋・同梱品明細》

| No | 部品名 | 規格 | 個数 | 備考 |
|----|---------|--------|----|----|
| 1 | 取扱説明書 | | 1 | |
| 2 | 品質保証書 | | 1 | |
| 3 | エンジン工具 | エンジン付属 | 1 | |
| 4 | 両口スパナ | 12×14 | 1 | |
| 5 | ワイヤーバンド | | 4 | |

《定期自主点検表》

- ★点検や整備を怠ると事故の原因となる事があります。正常な機能を発揮させ、いつも安全な状態であるようにこの「定期自主点検表」を参考に点検を行って下さい。
- ★年次点検は1年に1回、月次点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日点検を行うようにして下さい。

| 項目 | 点検内容 | | 点検実施時期 | | | | | |
|-------|-----------------------|----------------------------|---|------------------|----|---|---|---|
| | | | 始業 | 月次 | 年次 | | | |
| 原動機 | 本体 | ①かかり具合、異音 | 始動の際、容易に起動するか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | ②回転数と加速の状態 | 回転速度を徐々に上げ、正常に滑らかに回転するか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | ③排気の状態及びガス漏れ | 排気色、排気臭及び排気音は正常か。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | ④エアクリーナの損傷、弛み、汚れ | 損傷なく、取付部に弛み、著しい汚れはないか。 | | | ○ | ○ | |
| | | ⑤シリンダヘッドと各マニホールド締付部の弛み | ガス漏れ、亀裂、著しい腐食はないか。 *（正常締付トルクで弛みはないか） | | | | ○ | |
| | | *⑥弁すきま | （正規の隙間であるか） | | | | ○ | |
| | | *⑦圧縮圧力 | （正規の圧縮圧力であるか） | | | | ○ | |
| | | ⑧エンジンベースの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み。 | エンジンベースに亀裂、変形はないか。 ボルト・ナットに弛みはないか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | 潤滑装置 | ①油量、汚れ。 | オイルの量は適切か、オイルに汚れ、水・金属等の混入はないか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | ②油漏れ。 | オイルシール、ガスケット部に油漏れはないか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | 燃料装置 | ①燃料漏れ。 | 燃料の漏れはないか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | ②燃料フィルタの詰まり。 | 著しい汚れ、変形、目詰まりはないか。 | | | ○ | ○ | |
| | | *⑦圧③燃料の量・質。 | 燃料は入っているか、又質は良いか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | 電気装置 | ①電気配線の接続部の弛み、損傷。 | ハーネス接続は適切か、又弛み、損傷はないか。 | | | ○ | ○ | |
| | 清浄装置 | ①エアクリーナエレメントの汚れ | エアクリーナエレメントに汚れはないか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | ②エレメントの破損。 | エレメントに破れ、スリ切れはないか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | 冷却系統 | ①リコイルカバーへの草屑等の目詰まり。 | リコイルカバーが草屑等で目詰まりしていないか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | ②マフラへの草屑等の堆積。 | マフラ周辺に草屑が堆積していないか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | 伝達装置 | ベルト | ①弛み。 | ベルトの張り具合は適切か。 | | ○ | ○ | ○ |
| | | | ②損傷、汚れ。 | 亀裂、損傷、著しい汚れはないか。 | | | ○ | ○ |
| ミッション | | ①異音、異常発熱及び作動。 | 作動に異常はないか、又、異音、異常発熱はないか。 | | | ○ | ○ | |
| | | ②油量、汚れ。 | オイルの量は適切か、又、著しい汚れはないか。 | | | | ○ | |
| ③油漏れ。 | オイルシール、パッキン部に油漏れはないか。 | | ○ | ○ | ○ | | | |
| 車体 | 車体 | ①亀裂、変形及び取付ボルト・ナットの弛み、脱落。 | フレームの亀裂、変形、ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。 | | | ○ | ○ | |
| | カバー | ②亀裂、変形、腐食。 | 亀裂、変形、腐食はないか。 | | | | ○ | |
| | バー、ワイ | ①バー、ワイの損傷、弛み、ガタ、割ピンの欠損。 | 作動及び取付状態、著しい損傷及び弛み、ガタ、脱落はないか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| 走行装置 | タイヤ(ホイール) | ①空気圧及び溝の深さ。 | 基準値内であること。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | ②亀裂、損傷及び偏摩耗。 | 亀裂、損傷及び偏摩耗はないか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | ③金属片、石その他の異物の噛み込み。 | 異物の噛み込みはないか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | ④ボルト・ナットの弛み、脱落。 | ボルト・ナットの弛み、脱落はないか。 | | ○ | ○ | ○ | |
| | | ⑤ガタ、異音。 | 取付部に異音、ガタはないか。 | | | ○ | ○ | |
| 安全 | 表示マーク | ①損傷。 | 警告ラベル及び銘板が損傷なく取り付けられているか。 | | | ○ | ○ | |

※*印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

《自己診断表》

もし次のような現象が発生した場合には、取扱説明書を参考にして適切な処置をして下さい。

| 現象 | 原因 | 処置 |
|---------------------|--|----------------------------------|
| 残耕が残る。 | 爪の摩耗 | 爪を交換する(爪交換時は全数交換の事) |
| | 爪の取付方が間違っている。 | 爪を正しく取り付ける。 |
| ダッシングする。 | 作業抵抗が大きすぎる。 | 作業深さを浅くする。 作業幅を小さくしてみる(該当機種)。 |
| | 圃場が固い。 | 数回に分けて作業する。 |
| | バック耕うんをしている。 (該当機種) | 前進で作業を行う。 |
| | 石や木の根等の異物がある。 | 異物がある圃場では使用を避ける。 |
| 平面耕ができない。 | 爪の取付方が間違っている。 | 爪を正しく取り付ける。 |
| | 爪の回転方向と回転数が間違っている。 | 回転方向と回転数を確認する。 |
| 土が飛びすぎる。 | フラッパが切れている。 | フラッパの交換を行う。 |
| ベルトがスリップする | ベルトの張力が低い。 | ベルトの張力を調整する。 |
| | ロータリカバー内に異物が詰まっている。 | ロータリカバー内を清掃する。 |
| | 圃場が湿っている。 | 圃場が乾くのを待って作業を再開する。 |
| | ベルトの摩耗。 | ベルトを交換する。 |
| タイヤがスリップする。 | 作業抵抗が大きすぎる。 | 作業深さを浅くする。 |
| | ロータリカバー内に異物が詰まっている。 | ロータリカバー内を清掃する。 |
| | 圃場が湿っている。 | 圃場が乾くのを待って作業を再開する。 |
| 作業負荷が大きい。 | エンジン回転が低い。 | エンジン回転を上げる。 |
| | 作業抵抗が大きい。 | 作業深さを浅くする。 作業幅を小さくしてみる。(該当機種) |
| | 枝葉等の異物が多い。 | 枝の剪定直後等は使用を避ける。 |
| 後進時、ロータリークラッチが入らない。 | バックキャンセラーにより後進時にはロータリークラッチは入らない構造になっている。 | 正常 |

※わからない場合には、お買い上げいただいた販売店にご相談下さい。

《エンジンの不調とその処理方法》

もしエンジンの調子が悪い場合があれば、次の表により診断し、適切な処置をして下さい。

| 現象 | 原因 | 処置 |
|----------------------|---------------------------|--|
| 始動困難な場合 (始動しない場合) | スロットルレバーが「始動」の位置でない。 | スロットルレバーを「始動」の位置にする。 |
| | チョークバ -を引いていない。 | エンジン冷却時、チョークバ -を N 位置にする。 |
| | 燃料が流れない。 | 燃料タンクを点検し、沈殿している不純物や水分を除去する。燃料コックのストレーナを取り外し、カップ内の沈殿物を除去するとともに付着しているゴミを取り除く。 |
| | 燃料送油系統に、空気や水が混入している。 | 異物を取り除き、締付バンドを点検し、損傷があれば新品と交換する。 |
| | 寒冷時にオイルの粘度が高く、エンジンの回転が重い。 | 気温によってオイルを使い分けする。 |
| | 点火コイル、又はユニットの不良。 | *点火コイル、又はユニットを交換する。 |
| | 点火プラグの不調。 | 点火プラグの電極の隙間を点検し、調整する。 新しい点火プラグと交換する。 |
| 出力不足の場合 | 燃料不足。 | 燃料を補給する。 |
| | エアクリーナの目詰まり。 | エレメントを清掃する。 |
| | 燃料の質が悪い。 | 良質の燃料と交換する。 |
| | チョークが完全に開いていない。 | チョークバ -を完全に戻す。 位置にする。 |
| | 冷却システムが目詰まりをしている。 | リコイルスタータ周辺を清掃する。 |
| 突然停止した場合 | 燃料不足。 | 燃料を補給する。 |
| | 燃料コックが閉じている。 | 燃料コックを開く。 |
| 排気色が異常に黒い場合 | 燃料の質が悪い。 | 良質の燃料と交換する。 |
| | エンジンオイルの入れすぎ。 | 正規のオイル量にする。 |
| マフラから黒煙が出て出力が低下した場合 | エアクリーナエレメントの目詰まり。 | エレメントを清掃する。 |
| | チョークが完全に開いていない。 | チョークバ -を完全に戻す。 位置にする。 |
| マフラから青白煙が出た場合 | エンジンオイルの入れすぎ。 | 正規のオイル量にする。 |
| | シリンダ・ピストンリングの摩耗。 | *リングを交換する。 |
| エンジン回転が安定しない(上昇しない) | チョークが完全に開いていない。 | チョークバ -を完全に戻す。 位置にする。 |
| | 燃料の質が悪い。 | 良質の燃料と交換する。 |
| しばらくするとエンストする。 | 点火コイルの不良。 | *点火コイルを交換する。 |
| | 燃料フィルタの目詰まり。 | 燃料フィルタを清掃する。 |
| 排気に刺激臭がある。 | 燃料の質が悪い。 | 良質の燃料と交換する。 |

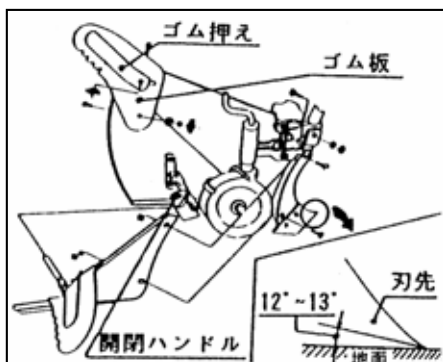
※*印は販売店にご相談下さい。但し、有料となります。

※わからない場合は、お買い上げいただきました販売店にご相談下さい。

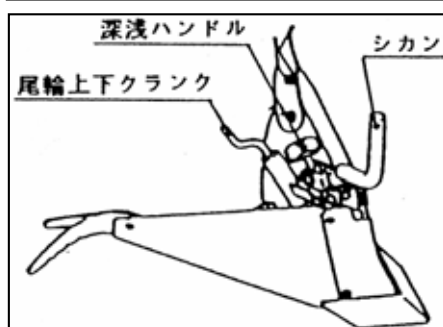
《アタッチメント（別売品）について》

本製品は中耕培土板を使って一般の畑の耕耘機として使用することも出来ます。

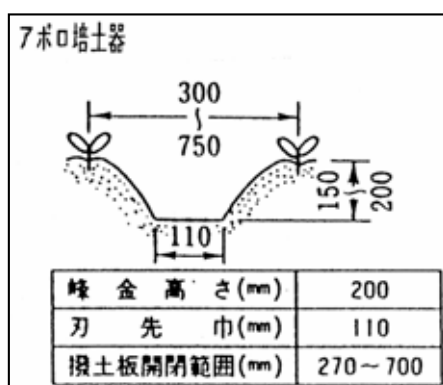
中耕培土板の装着方法



- ① 耕深調節尾輪を外して下さい。
- ② 耕深調節尾輪に培土板シカンを上一杯まで差込み、横からジャッキボルトで固定して下さい。
- ③ 本機を圃場に置いた状態で、作業機側が土中に沈む事を考えて、深浅ハンドルを回して予め12°~13°の突っ込み角度を培土器につけておきます。
(作業中は培土器の底板が溝底とほぼ平行になるのが標準です。)

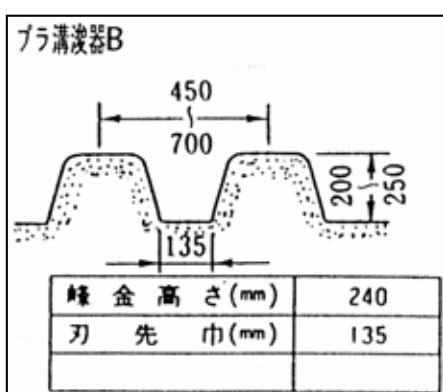


- 角度をつけすぎると、培土器が土中に食い込んでしまい、大きな抵抗となり、タイヤがスリップして前に進まなくなります。
 - 逆に浅いと、培土器が上に押し上げられて、畝ができません。
- ④ 畝の深さを尾輪上下クランクで調整して下さい。



- ④ (あまり一度に深くかけすぎるとタイヤがスリップして前進しなくなりますので、注意して下さい。)

- ⑦ 畝幅を開閉ハンドルで調整して下さい。
加えてアポロ培土器では、補助羽の出し入れでも畝幅の調整が可能です。



- ⑧ 畝上が均一になるようにゴム押さえを曲げてゴム板を調整して下さい。(プラ溝浚器Bのみ)

- ⑨ 圃場状態(湿り具合、耕うん状態等)で、畝の仕上がり状態もかなり違ってきます。

作業をしながら深浅ハンドル・尾輪上下クランクで最適な位置へ更に微調整をして下さい。

参考；

培土器で成型できる畝形状はほぼ左図の通りです。
プラ溝浚器Bの畝幅の調整は本来固定式であるため、大きくはできません。

| 品名 | コードNo. | 備考 |
|--------|----------------|---------------|
| アポロ培土器 | 7-1260-520-000 | 大豆等の培土(土寄せ)作業 |
| プラ溝浚器B | 7-1260-544-000 | 畝立、培土作業 |



株式会社
オーレック

| | | | |
|------------------------|-----------|--------------------------|---|
| 本 社 | 〒834-0195 | 福岡県八女郡広川町日吉548-22 | TEL. 0943-32-5002(代) FAX. 0943-32-5009 |
| 広 川 工 場 | 〒834-0195 | 福岡県八女郡広川町日吉548-22 | TEL. 0943-32-5002(代) FAX. 0943-32-5009 |
| 城 島 工 場 | 〒830-0207 | 福岡県久留米市城島町城島23-4 | TEL. 0942-62-3161(代) FAX. 0942-62-6078 |
| 仙 台 営 業 所 | 〒983-0821 | 宮城県仙台市宮城野区岩切 2丁目1-15 | TEL. 022-255-3009(代) FAX. 022-255-3039 |
| 長 野 サ ー ビ ス セ ン タ ー | 〒387-0012 | 長野県千曲市桜堂字西沖335-1 | TEL. 026-273-5686(代) FAX. 026-273-5687 |
| 関 東 営 業 所 | 〒337-0051 | 埼玉県さいたま市見沼区東大宮 4-70-3 | TEL. 048-651-6160(代) FAX. 048-664-0977 |
| 名 古 屋 営 業 所 | 〒491-0871 | 愛知県一宮市浅野字馬東41-1 | TEL. 0586-77-7002(代) FAX. 0586-77-7003 |
| 岡 山 営 業 所 | 〒700-0951 | 岡山県岡山市北区田中123-104 | TEL. 086-245-2568(代) FAX. 086-245-2569 |
| 福 岡 営 業 所 | 〒834-0195 | 福岡県八女郡広川町日吉548-22 | TEL. 0943-32-4778(代) FAX. 0943-32-3518 |
| 鹿 児 島 営 業 所 | 〒899-6404 | 鹿児島県霧島市溝辺町麓843-6 | TEL. 0995-58-3991(代) FAX. 0995-58-2491 |